

保護者の皆さま

県立市ケ尾高等学校  
校長 佐藤 弘之

## 令和 3 年度第 2 回「生徒による授業評価」集計結果について

令和 3 年 12 月、「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

## 1 授業評価の概要と結果

## (1) 評価項目

大項目	設問	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

## (2) 評価

(1) の項目について次の 4 段階で評価を行った。

- 4 かなり当てはまる                      3 ほぼ当てはまる  
2 あまり当てはまらない              1 ほとんど当てはまらない

## (3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が 最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字で明示した。

## (4) 各教科の小項目の評価「4 かなり当てはまる」の割合

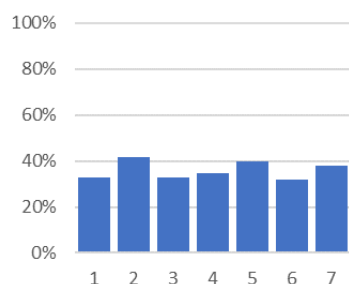
設問	国語	地歴・公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	平均
1	45.1%	38.0%	36.5%	34.0%	<u>33.9%</u>	50.2%	33.2%	25.2%	<u>22.8%</u>	35.4%
2	<b>48.5%</b>	34.9%	38.9%	26.5%	37.5%	47.7%	31.5%	22.0%	29.0%	35.2%
3	44.3%	<u>34.1%</u>	43.0%	29.8%	<b>39.9%</b>	<u>44.9%</u>	33.2%	24.0%	29.0%	35.8%
4	<u>39.8%</u>	37.0%	<b>43.3%</b>	31.7%	39.0%	<b>53.6%</b>	34.9%	27.0%	<b>38.2%</b>	<b>38.3%</b>
5	46.0%	34.6%	<u>34.1%</u>	<u>25.5%</u>	35.5%	46.7%	<u>30.4%</u>	<u>20.8%</u>	26.8%	<u>33.4%</u>
6	41.5%	36.5%	37.0%	30.5%	37.3%	45.1%	31.1%	26.7%	29.3%	35.0%
7	43.8%	<b>42.2%</b>	40.5%	<b>35.5%</b>	35.8%	47.0%	<b>37.0%</b>	<b>29.7%</b>	32.5%	38.2%

## 2 各教科の分析と改善の手立て

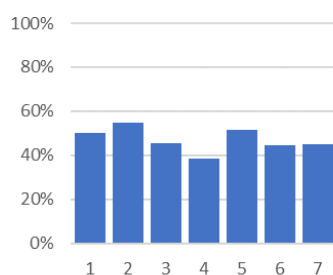
	分析	改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の調査結果に比べて、どの項目も全ての教科の平均値を上回った。これは、国語科の教員の中で授業改善に関する共通の理解が図られ、団結して一貫した授業改善を目指した成果であると考えられる。</li> <li>・設問2「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」が3.8%下がっており、授業内で他者と考えを共有できる機会が不足していたと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、毎時間の授業において、ねらいの提示や授業の振り返りを確実に行うことによって、その時間にできるようになったことや身についた知識を実感させられるように努めたい。また、生徒が自らの考えを表現する時間を確保しつつも、それを周囲の意見と交流させ、自らの考えの深化に活かす機会を充実させたい。</li> </ul>
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業評価では、前回社会科の中では最も評価の低かった設問2「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」が、0.9%、設問3「自分の考えをまとめたり、解決方法を考える」が0.1%、設問5「他者の考えを知ること、新たな考えや自分の考えを広げ深める」が0.4%と微増し、他は前回より評価が下がった。特に、設問1「授業の狙いや学習を振り返る機会」、設問7「授業で学んだことを既習範囲と関連付けて理解できた」が4%以上下がった。</li> <li>・教科として「生徒に身に付けさせたい力」と設定した「自分の言葉で他者に説明したり、文章化するなどの自己表現をすることができる」としては、前回の反省を生かして教科を挙げて取り組んできた取組みが、生徒にもしっかり受け止めてもらえていることは評価できる。しかしながら、授業の狙いや学習を振り返る機会が乏しいと感じている点や、授業における学習内容を、既習内容と関連付けて理解できていないという点については、新たに反省しなければならない。設問7は5教科の中でも国語科に次いで40%台をキープしているものの、生徒が「理解できる」授業を展開することは、授業者として日々心掛けなければならない事であり、今後の授業構成・教材研究に忘れてはならないことである。その点においては、今回の授業評価を一つのターニングポイントとしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも他者の考えを知る機会を確保できるように、紙面に「文章化」する</li> <li>・Google classroom機能を駆使して共有を図るなど、引き続き教科でできることを模索していく。</li> <li>・授業のねらいを明確に提示すること、「問い」を充実させることにより、生徒自身が思考する機会を確保する。</li> <li>・単元ごとにこれまでの授業を振り返る機会を設け、生徒の理解度の確認やフィードバックを定期的・効率よく行うことで、生徒が「わかりやすい」授業ではなく、生徒が「理解できる」授業を展開できるように教科を挙げて研修に動かしむ。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月、1月にオンラインで授業を行う期間があったが、担当毎に同時双方向での授業を実践した。その結果、授業の質を確保することができ、設問3、4、5の項目に関して高い数値を得ることができたことと考える。</li> <li>・設問2、5の「他者の考えを知ること」に関して低い割合が見られている。その原因は、新型コロナウイルス感染症対策の影響でグループワークや話し合う場面が制限されていることが考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、授業時数が満足に確保できないことが考えられる。その場合においても、Google classroomを積極的に活用し、教育の質を高めていきたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を踏まえながら、これからも紙面やMeetでの考え方の共有や他者の考えを知るためにペアワークをより授業に取り入れていく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての項目で第1回の評価よりもよくなっているが、その中でも設問2と5の「他者の考えを知ること」、「自らの考えを広げること」に関しての数値が低い傾向にある。これは、依然として授業内でのグループワーク等の活動に制限があるためだと考えられる。しかし、その状況下で感染防止に配慮しながら実験等の活動を取り入れてきたこと、各担当が代替として提示資料等の工夫を取り入れてきたことが評価の向上につながったと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して感染状況を踏まえながら、生徒実験やグループワークの機会を設けることで、生徒が他者の考えを知り、自らの考えを広げ深められるように授業を展開していく。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比較して、全項目において評価が下がっている。新型コロナウイルス感染症対策もあり、生徒同士が話し合いを実施する機会が少なかったり、オンラインでの授業の機会もあったことが影響していると思う。しかしすべての原因がそこではないはずなので、基本的な授業の実施方法から見直す必要もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず課題が明確な部分から改善する。体育・保健にかかわらず、授業や単元の目標を明確に提示し、それに沿って授業計画をたてる。次にコロナ禍の状況に影響されない方法で、他者とのかわりから学んだり、自分の考えを表現する機会を設定できるようにする。</li> </ul>
芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目が前回の数値を上回り、概ね良好な評価であると思われる。これは、教科の中で授業に関する共通の理解が図られ、より良い授業改善を目指した成果であると考えられる。また、全項目が50%に近い数値になっており、生徒自身が芸術活動に対して、主体的に取り組んでいると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も教科の特徴を生かし、教科書の中身だけではなく、それに関する日常の中から、生徒に将来への夢や興味関心を抱かせるような授業づくりをしていきたい。</li> <li>・今、学んでいることが自分と関わり（意味）があると感じ取らせ、何を追及し、どのような発展性をもたらすものなのか考えさせる。</li> <li>・思考力、判断力、表現力そして問題解決力を育む課題をを設定し、組織的な授業内容の向上に取り組んでいきたい。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の評価と比較すると、設問7の「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」に関わる項目について数値が上昇した。この項目は、第1回、第2回ともに最も4の割合が高い項目である。カリキュラムが進むと共に、語彙力や文法力が積み上げられ、それらをうまく運用することができる生徒が前回から増えたと考えられる。</li> <li>・特に、3年生は入試問題の演習などで、これまでの学びを関連付け取り組んだと考えられる。</li> <li>・一方、設問5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」に関わる項目においては、数値の若干の上昇が見られた。学習形態の制限の中で、ピアフィードバックの機会を取り入れる工夫を各科目で実施したことで、小さな変化ではあるが改善がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を取りながらペアワークやグループワークをすることで、生徒が他者の考えから新たな考え方を知る機会をより充実させる。具体的には、ライティングのペアフィードバックや、Google classroomなどを使用した意見交流などが考えられる。</li> <li>・生徒の知識がどこまで積みあがっているかなど、学習内容の理解については科目担当で情報を共有しながら組織的に対応していく。さらに質問や解説をGoogle classroomなども活用しながら、補っていく。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の評価と比較すると、設問7の「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。」の項目で数値が上昇した。食生活の分野で学習した内容に、生物や化学などの他教科で学習したことが多数盛り込まれていたからだと思われる。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、調理実習が実施できなかったことやグループでの活動が制限されてしまったため、その他の設問項目では数値が減少してしまった。特に設問5の「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」の項目が最低の数値になってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験には直接関わらない教科・科目であるが、これから生きていくうえでは非常に重要なものであることがわかるように、他教科の内容と関連させて科学的に理解させ、知識や技能を身に付けさせていく。</li> <li>・授業中での実験・実習を増やしていけるよう教材を工夫する。</li> <li>・家庭でも体験学習ができる教材を研究し、実践させていく。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の結果と比較すると、質問2の「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目が上昇した。コロナ禍で学習形態が制限されている中で、プレゼンテーションの発表を通じて他者の考えを知ることができたからではないかと考えられる。</li> <li>・それ以外の項目は減少していた。減少した原因としては、オンライン授業期間に限られた環境で普段の形とは異なる授業を受けることとなりその影響があったのではないかと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業であっても対面での授業と同じような内容の授業ができるように準備しておく必要がある。ただし、現在の環境ではすべての内容をオンラインでは対応できない状況のため環境を含めた改善が必要である。</li> </ul>

### 3 科目別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合（各学年必修科目のみ記載）

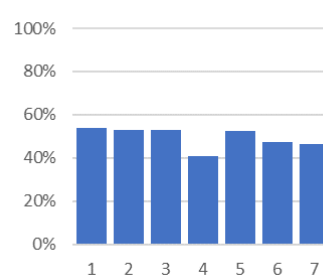
国語総合



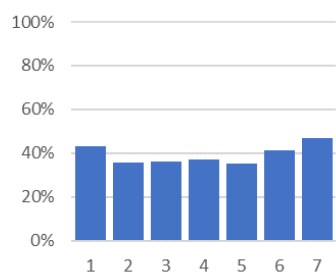
現代文 B（2 年）



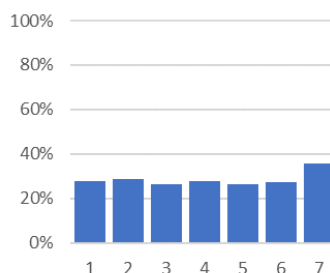
現代文 B（3 年）



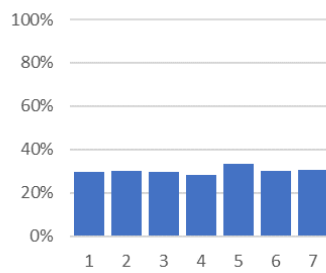
日本史 A



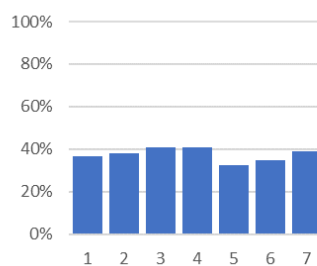
世界史 A



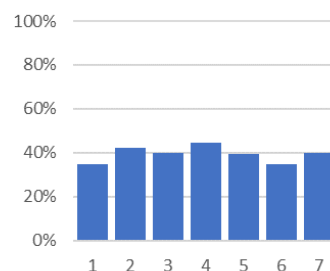
現代社会



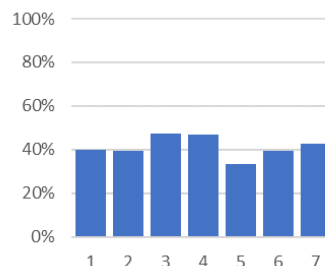
数学 I



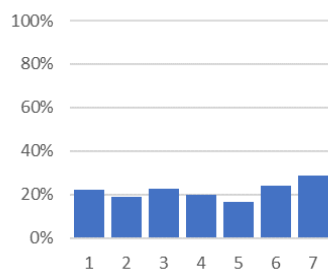
数学 A



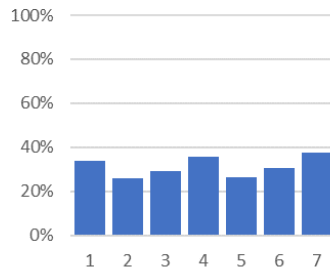
数学 II



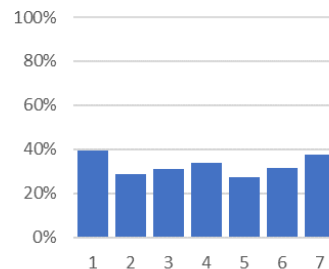
物理基礎



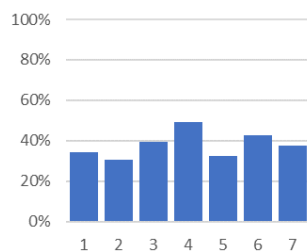
化学基礎



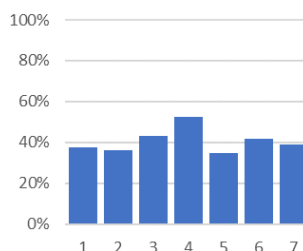
生物基礎



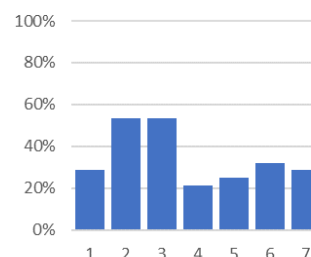
体育（1 年）



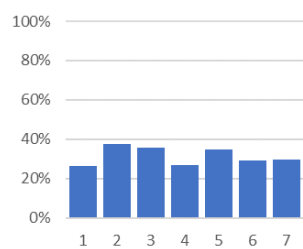
体育（2 年）



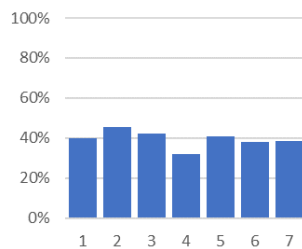
体育（3 年）



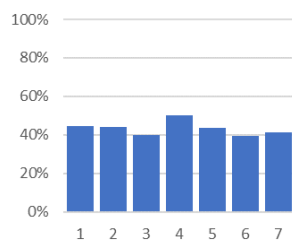
保健（１年）



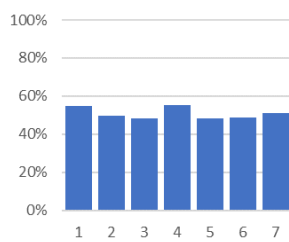
保健（２年）



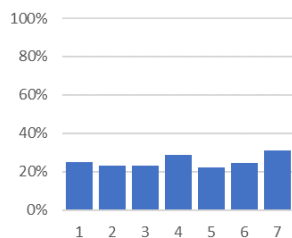
芸術Ⅰ



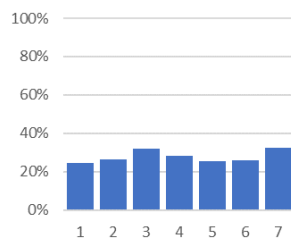
芸術Ⅱ



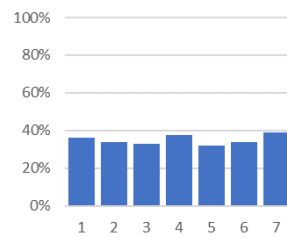
コミュ英Ⅰ



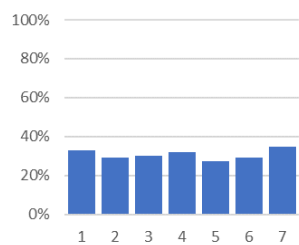
コミュ英Ⅱ



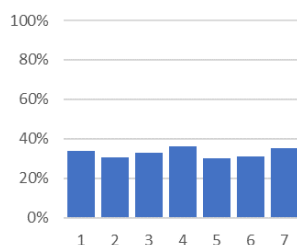
コミュ英Ⅲ



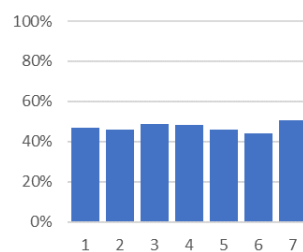
英語表現Ⅰ



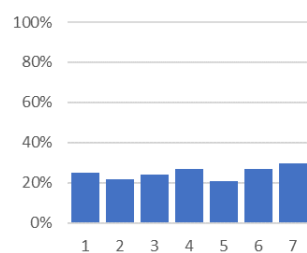
英語表現Ⅱ（２年）



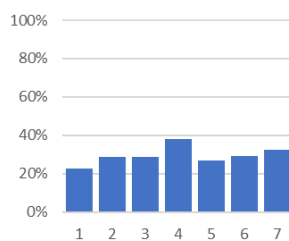
英語表現Ⅱ（３年）



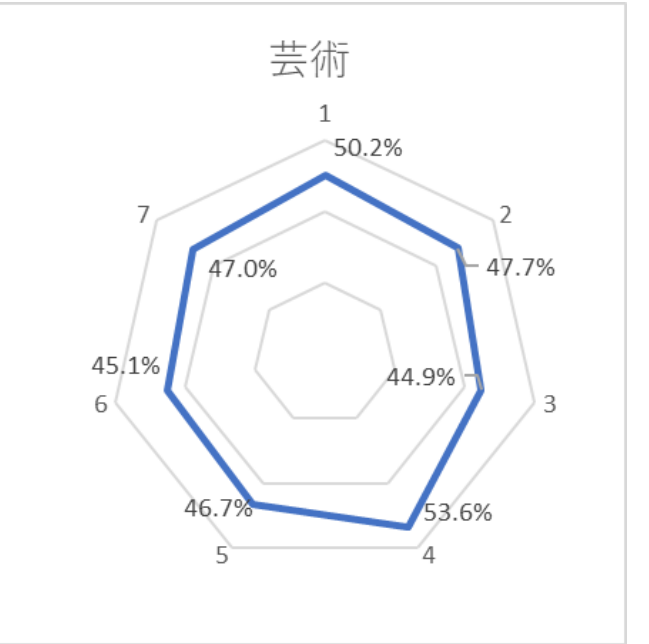
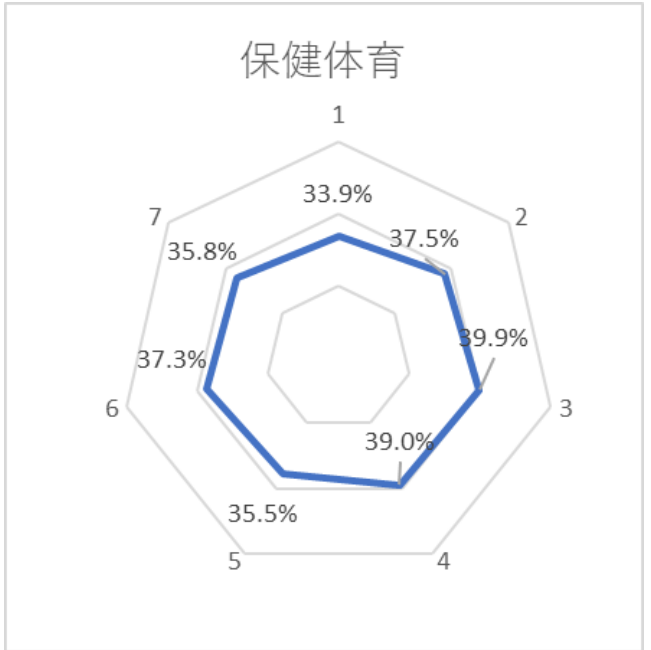
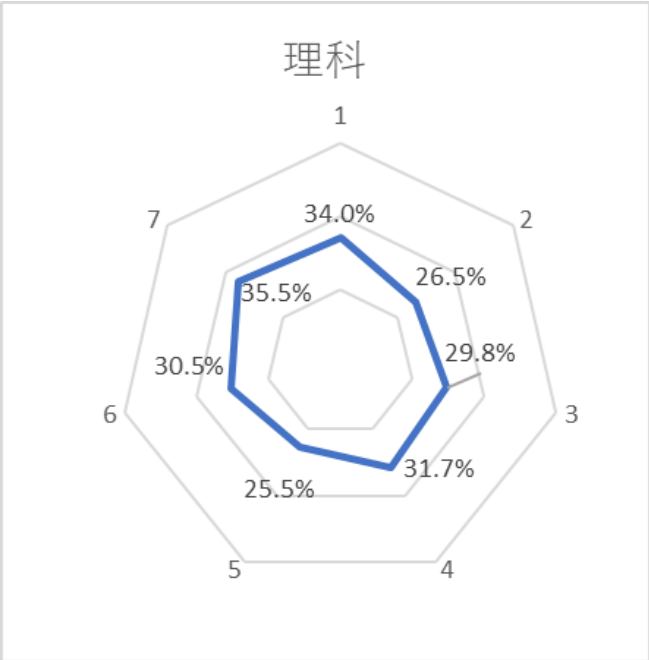
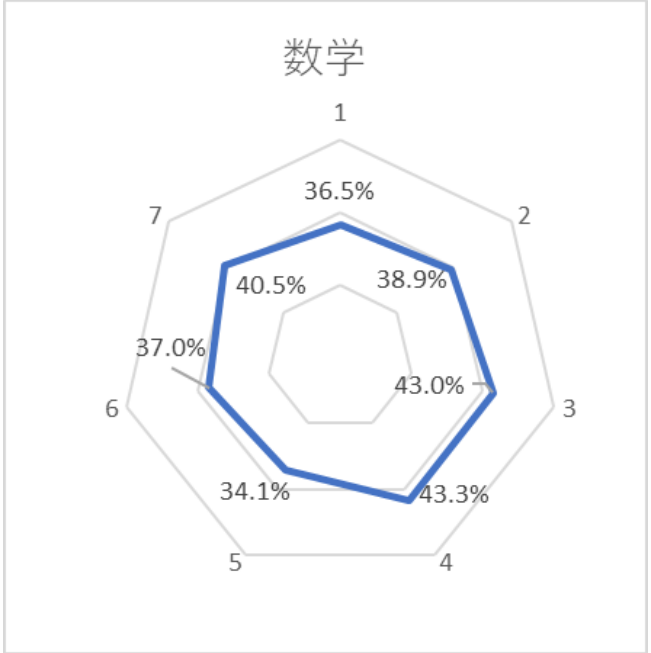
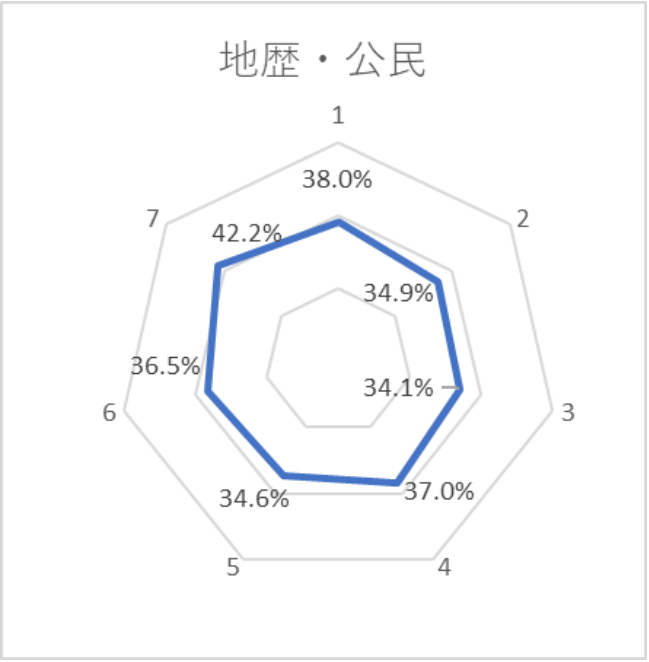
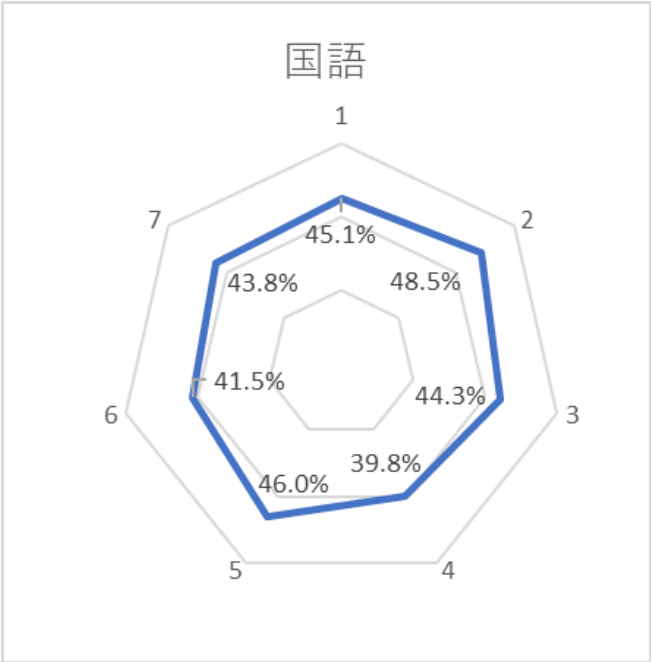
家庭基礎



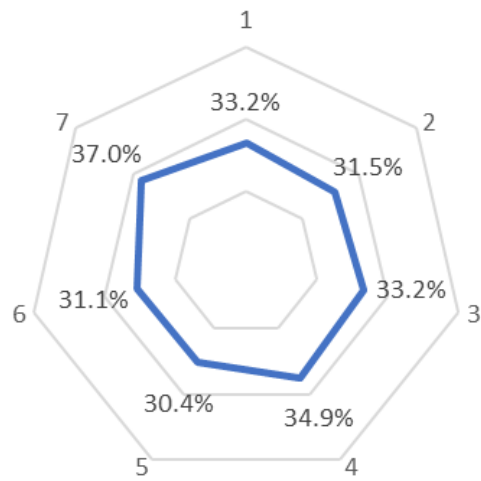
社会と情報



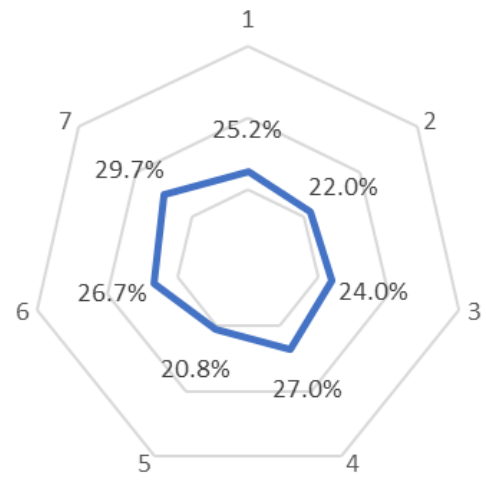
教科別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合



## 外国語



## 家庭



## 情報

